



幼児教育50年「幸せ」

鯖江・笠川さん

鯖江市鯖江幼稚園・王山保育所の笠川みち子前園長(70)＝鳥羽3丁目＝が3月いっぱい
で退職し、50年の幼児教育人生を終えた。市によると、同市の幼稚園教諭で60歳定年後に
10年間勤めたのは笠川さんが初めて。子どもの心に寄り添うことを心掛け、これまでに千
人以上を送り出した。「こんなに素晴らしい仕事を続けられて幸せだった」と家族や同僚
らに感謝している。
(杉本拓磨)

1000人超送り出し退職

自信育み夢を後押し

笠川さんは5歳上の保
育士の姉に憧れ、同じ道
を志すようになった。大
阪の短大で幼児教育を学
び、20歳で鯖江市の採用
試験に合格。51歳まで現
場で担任などを務め、そ
の後には副園長や園長を歴
任した。
幼児教育のやりがい
は「子どもができなかつた
ことができるようになる
瞬間」。そのために遊び
にも目標を持たせること
を心掛けた。体験するこ
とが幼児期にはとても重
要で、「できた」が自信
につながるという。でき

退職日に子どもたちからプレゼントを受け
取り笑顔の笠川さん＝3月30日、鯖江市鯖
江幼稚園・王山保育所

ない子にもとことん付き
合ひ、「努力すれば必ず
夢はかなうこと、応援し
てくれる味方がいること
を伝えたい」。誕生日会や卒園式など
に子どもに手作りのコサ
ージュを贈ることを約20
年間続けた。その子を思
って丁寧に作る作業は夜
中までかかることもあっ
た。「今は何でも買えて
便利だけど、愛情が伝わ
るのが手作りの良さ」。
園児たちのかばんを愛情
たっぷりのコサージュが
飾っていた。
保育士不足や待機児童
問題が全国的な課題とな
っている。笠川さんは「何
百人、何千人の子どもの
成長を近くで見ることが
できる仕事はなかなか
いない」と残念を言う。「子
どもを一番に考え、その
ためにも先生たちの環境
も整えてほしい」と保育
や幼児教育の将来を願う。
最後の勤務日となった
3月30日、園児から笠川
さんに似顔絵などがプレ
ゼントされた。どの子が
描いた顔も笑顔で笠川さ
んの人柄がよく表れてい
た。「泣くのは好きじゃ
ない」と言いつつ最後まで
笑顔で子どもたちを見送
っていた。